

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

|       |                       |      |        |       |            |        |        |
|-------|-----------------------|------|--------|-------|------------|--------|--------|
| 事務事業名 | 環境にやさしい交通社会形成事業       | 会計   | 一般会計   | 事業No. | 359        | 施策順No. | 57-004 |
|       |                       | 事業種別 | 政策・その他 | 予算科目  | 4-1-5-18-1 |        |        |
| 政策    | 5人の営みと自然・環境が調和したまちづくり | 課等名  |        |       | 地球温暖化対策課   |        |        |
| 施策    | 57省エネ・新エネ活用の推進        | 事業期間 | 開始     | 17    | 終了         |        |        |

1 事業の目的

|                               |  |  |        |        |        |        |        |  |        |
|-------------------------------|--|--|--------|--------|--------|--------|--------|--|--------|
| 事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです    | 対象   | 市民、事業所・行政                                  |        |        |        |        |        | A十分達成した<br>Bどちらかといえば達成した<br>Cどちらかといえばできていない<br>Dほとんど達成できていない |        |
|                               | 誰、何に                                       | 具体的な数値で表すと(対象指標)                           | 19年度   | 20年度   | 21年度   | 22年度   | 23年度   |  |        |
|                               | 意図   | ノーマイカー通勤を推進し、公共交通を利用が図られ、温室効果ガス排出量の削減を図る   |        |        |        |        |        |  |        |
|                               | 対象をどう変えるか                                  | 事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)                     | 19年度実績 | 20年度実績 | 21年度実績 | 22年度目標 | 22年度実績 |  | 23年度目標 |
|                               |  | 飯田市の人口(人)<br>(H21.10.1現在推計人口)              |        | 106630 | 105691 | 105036 | 107259 |  |        |
|                               |  | ノーマイカー通勤の参加者数(延べ人数)<br>(6月、10月、2月に一斉行動を実施) | 20212  | 27748  | 24000  | 27740  | 22615  | 30000  | A      |
|                               |  | 自転車走行距離(km)                                |        | 12920  | 33250  | 45015  | 46000  |  |        |
| 22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】 | 自転車の利用推進に関する啓発事業が奏功し、目標を大きく上回る実績を得ることができた。 |  |        |        |        |        |        |  |        |

2 手段(具体的な取り組み内容)

|              |   |  |  |
|--------------|---|--|--|
| 事業の制度(仕組み)説明 | <p>1 ノーマイカー通勤の励行<br/>「地域ぐるみ環境ISO研究会」が温暖化防止に向けて取り組んでいるノーマイカー通勤の一斉行動を支援し、事業所・市民・行政が一体となり地域ぐるみで温暖化防止に取り組む。</p> <p>2 EV車、ハイブリッド車の普及<br/>EV車、HV車の普及PRを行い、低炭素な乗り物への転換を促す。</p> <p>3 飯田地球温暖化対策地域協議会に属するアジマ自動車学校が主催する「エコドライブ1000人」を推進するとともに、市職員にも参加を呼びかける。(ゼロ予算事業)</p> <p>4 自転車利用の推進<br/>自転車市民共同利用システムの運行を核とした自転車利用の推進に取り組む。<br/>施策内重点事業として実施予定。</p> |  |  |
|              | 事業内容  | 名称   | 活動量・単位   |
| 22年度事業内容     | 1 地球温暖化防止一斉行動を支援<br>(1)「環境の日」ノーマイカー通勤一斉行動 6月<br>(2)「生活と環境まつり」ノーマイカー通勤一斉行動 10月<br>(3)「京都議定書発行記念」ノーマイカー通勤一斉行動 2月  | 1<br>(1)参加者数(人)<br>(2)参加者数(人)<br>(3)参加者数(人)                  | 1<br>(1)8,159人<br>(2)6262人<br>(3)8,194人                                |
|              | 2 EV車、ハイブリッド車の普及<br>(1)EV車の導入<br>(2)イベント開催時におけるEV車の普及啓発(試乗体験など)<br>(3)地域ぐるみ環境ISO研究会所属企業への貸出し(1台)  | 2<br>(1)導入台数(台)<br>(2)開催回数(回)<br>(3)貸出先数(カ所)                 | 2<br>(1)2台<br>(2)4回<br>(3)2カ所  |
| 23年度実施計画     | 3 BDF燃料利用の推進(公用車1台・廃棄物収集車2台)  | 3 BDF消費量(ℓ)  | 3 4,148ℓ   |
|              | 4 自転車市民共同利用の推進<br>(1)市民共同利用システムの運用<br>(2)自転車利用の啓発・PR活動の実施   | 4<br>(1)利用者数(人)<br>(2)活動回数・参加人数(回・人)                         | 4<br>(1)延べ8737人<br>(2)5回・300人  |
| 23年度実施計画     | 1 地球温暖化防止一斉行動の支援<br>(1)ノーマイカー通勤一斉行動の実施 6月(環境の日)<br>(2) 同上 10月(生活と環境まつり)<br>(3) 同上 2月(京都議定書発行記念)   | 1<br>(1)参加者数<br>(2)参加者数<br>(3)参加者数                           | 1<br>(1)8,159人<br>(2)6262人<br>(3)8,194人                                |
|              | 2 EV車、ハイブリッド車の普及<br>(1)EV車のイベント開催時における普及啓発<br>3 エコドライブ1000人プロジェクトへの参加促進<br>4 自転車利用の推進<br>(1)自転車関連イベントの開催<br>(2)自転車市民共同利用システムの運行<br>(3)自転車モニター貸出の試行  | 2<br>(1)開催回数<br>3 参加者数<br>4<br>(1)開催回数<br>(2)走行距離<br>(3)貸出人数 | 2<br>(1)2回<br>(2)4回<br>(3)2カ所<br>4<br>(1)8737人<br>(2)5回・300人<br>(3)2カ所 |

3 事業コスト

|             |       |       |         |         |         |             |
|-------------|-------|-------|---------|---------|---------|-------------|
| 事業費         | 特定財源  | (千円)  | 22年度予算額 | 22年度決算額 | 23年度予算額 | 特定財源内訳、補足事項 |
|             | 国庫支出金 |       |         |         |         |             |
|             | 県支出金  |       |         |         |         |             |
|             | 起債    |       |         |         |         |             |
|             | その他   |       |         |         |         |             |
| 一般財源        |       | 3,179 | 2,406   | 4,461   |         |             |
| 計(A)        |       | 3,179 | 2,406   | 4,461   |         |             |
| 正規職員所要時間    |       |       | 150     |         |         |             |
| 臨時職員等所要時間   |       |       |         |         |         |             |
| 人件費計(B)     |       |       | 536     |         |         |             |
| トータルコスト A+B |       |       | 2,942   |         |         |             |

4 事業に対する市民や議会の意見

|   |
|---|
| 市民から、脱温暖化対策として、自動車排出ガスの削減を推進する要望、意見が強い。<br>議会から、公共交通機関の利用促進を積極的に進められたい。 |
|---|

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

|                    |        |                  |                |
|--------------------|--------|------------------|----------------|
| 行財政改革の取組区分         | 【記載不要】 | 具体的な取組事項         | 【政策的事業のため記載不要】 |
| 21年度決算と比べての効果額(千円) | 【記載不要】 | 効果額説明(算出根拠)、特殊要因 | 【政策的事業のため記載不要】 |

6 前期4年間の取組評価(総括)

| 上位の施策への結びつき  | 上位施策の目的  | 環境に配慮しエネルギーを工夫して大切に使う  | 施策の成果指標又はムツ指標 | 飯田市全体が排出する温室効果ガスの排出量(トン・19年度算出実績は17年度のもの) |
|--|----------|--|---------------|---|
| この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか  | 4年間の振り返り | ノーマイカー通勤の取組み事業所については、定着事項として年3回の一斉行動を機に実施している。自転車の利用については、平成21年10月より自転車市民共同利用システムを運航開始。平成23年3月末までに58,071kmの利用があった。EVの貸出しについては、1社当たり2ヶ月とし、22年度中に2社の貸出しを行い、事業用車両の低炭素化と普及啓発を行った。  |               |   |
|  | 後期に向けた課題 | ノーマイカー通勤の取組みの更なる拡大。自転車の利用については、電動自転車にあつては貸出拠点近隣住民等による近場利用と、スポーツ自転車にあつては愛好者又はイベントでの利用に2極化してきている。自転車を利用する習慣のない市民に対して自転車利用を訴求していくには、新たな啓発メニューの開発が必要となっている。また、EVについては、電気自動車の利用の啓発事業は行っているが、給電インフラが整っていないため、即、導入には結び付かない現状にある。        |               |   |
| この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか   | 4年間の振り返り | ノーマイカー通勤の取組みについては、飯伊の参加事業所にそのつど呼びかけを行い、取組み結果を公表してきた。自転車のまちづくり事業との連携については、エコライフコーディネーターによる啓発事業として展開することで、健康づくりを含め、自転車の持つ多様な魅力や効用を発信する事業として展開することができた。また、観光課との連携により、観光コンテンツとしての自転車を発信することで、多くのサイクリストを飯田市へ招き入れることができた。              |               |   |
|  | 後期に向けた課題 | ノーマイカーの取組みについて新たな参加事業所を増やすこと。レンタサイクルについては、更なる利便性を高めるため、ニーズに即した新しいレンタサイクルシステムの確立や、公共交通政策との緻密な連携、地域健康ケア計画との更なる協働を行うことにより、環境面のみではなく、地域の移動手段の一つとして、また、健康づくりの一つとしての自転車の利用を複合的に進めていく。  |               |   |
| コストを削減するためにどのような工夫をされましたか  | 4年間の振り返り | 自転車市民共同利用システムを構築する際、貸し出しポイントを公共施設とすることで、ハード整備、イニシャルコストを最小限に抑えることができた。  |               |   |
|  | 後期に向けた課題 | レンタサイクルを安心してご利用いただくためには、一定のランニングコストは必要不可欠である。その中で、ランニングコストの負担を行政で行うのか、受益者が負担するのかを検討していく必要がある。  |               |   |
| 受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか   | 4年間の振り返り | ノーマイカー通勤については、各事業所がそれぞれ取り組むもので、市は研究会事務局として、取組み呼びかけを行う役割で関与の程度は適切であった。レンタサイクルについては、環境モデル都市として、市民および訪れていただいた方を対象として、レンタサイクルを提供できた。坂の多い飯田市でレンタサイクル事業を行うのは社会実験的な意味合いを持ち、導入初期における市が関与する必要性は非常に高い。                                     |               |   |
|  | 後期に向けた課題 | ノーマイカー通勤については引き続き、これまでと同様適切な関与を行っていく。レンタサイクルは今後のニーズにより、使い勝手を向上しながら受益者に負担をしていただき運営を行っていくことを視野に入れた、新しいシステムの確立を検討する余地はある。   |               |   |
| 多様な主体の役割の発揮状況<br>①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。<br>②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしてきましたか、又は、配慮してきましたか | 4年間の振り返り | ノーマイカー通勤の取組みについては、各事業所が主体となって取り組むことで、CO2削減に貢献した。行政は、研究会事務局として取組みへの参加を積極的に呼びかけると共に、結果を取りまとめ各事業所に成果を報告した。レンタサイクルシステムにおいては、延べ35事業所にて趣旨を理解しうえてご利用いただいた。多くの事業所がかかわっていただく中で、地域内に広く適及することができ、自転車に乗る機会、公共交通について考えていただく機会を多くの市民に向け提供ができた。 |               |   |
|  | 後期に向けた課題 | ノーマイカー通勤については、参加事業所の増加につながるよう、啓発等も工夫して呼びかけを行っていくことが必要である。レンタサイクルについては、新しい事業所への貸し出しを行い、多くの市民に触れていただくことで良さを感じていただき、恒久的な自転車人口の増加へつなげていくことが必要である。  |               |   |
| 全体を通じて   | 4年間の振り返り | ノーマイカー通勤については、CO2削減に大きく貢献しているが、長年取り組む中でマンネリ化してきているため、参加者が増加していない。22年度中に、飯田地球温暖化対策地域協議会に属する南信州広域タクシーが、EV車である日産リーフを乗合タクシーとして2台を投入した。新潟陸運局管内で最初の事例であり、これも、市が進める電気自動車普及政策への理解の下に行って頂けたもので、一定の訴求効果があったものと理解している。                      |               |   |
|  | 後期に向けた課題 | ノーマイカー通勤について、取組み内容のマンネリ化解消と今まで参加してこなかった事業所が取組みを行えるよう、今後啓発等で工夫していく必要がある。EV車は高価であり、またインフラが行き届いていないが、普及への課題を洗い出し、必要な措置を講じながら、今後も企業レベルでの導入を進めていく必要がある。   |               |   |

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

|                      |    |                    |    |                       |    |
|----------------------|----|--------------------|----|-----------------------|----|
| 事務事業を統合・分割する必要はありますか | ない | 対象や意図を修正する必要はありますか | ない | 成果指標や指標値を修正する必要はありますか | ある |
|----------------------|----|--------------------|----|-----------------------|----|

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

|                             |  |                             |                                 |                               |                               |                                |                                   |
|-----------------------------|--|-----------------------------|---------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 完了 | <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 | <input type="checkbox"/> 縮小 | <input type="checkbox"/> 別事業に統合 | <input type="checkbox"/> 休止廃止 | <input type="checkbox"/> 現状維持 | <input type="checkbox"/> 目的見直し | <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 |
|-----------------------------|--|-----------------------------|---------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|-----------------------------------|